別記様式第6

論 文 審 査 の 要 旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士（　教育学　）Ph.D.	氏 名 (Candidate Name)	姜　家晨
学位授与の要件	学位規則第４条第[1]・２項該当		

論　文　題　目 (Title of Dissertation)
児童の興味の質的向上を図る小学校美術教育における鑑賞学習の開発
―J・デューイの遊戯論を基に―

論文審査担当者 (The Dissertation Committee)

主　　査 (Name of the Committee Chair)	教　授	中村　和世
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教　授	桑島　秀樹
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教　授	児玉　真樹子
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	池田　吏志

〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)

本論文は，中国人児童を対象に図画工作科で扱う鑑賞に対する興味の実態を明らかにするとともに，興味の質的向上を効果的に促す構造化された美術鑑賞の学習モデルをジョン・デューイの興味論・遊戯論を基盤として構築し，その効果を中国の小学校でのアクション・リサーチを通じて検証することを目的としている。本論文は，本論５章で構成されている。

第１章では，児童の興味の向上を図る美術教育の学習に関する先行研究のレビューが，①実態調査，②教材開発，③学習指導法，④遊戯の活用の４項目を中心に行われ，中国における鑑賞学習の研究不足とともに，生涯を通して美術を学び続けることを可能にする興味の質に焦点を当てた学習開発の必要性が指摘されている。

第２章では，デューイの教育論にある子どもの成長と興味の質との関係，直接的興味から間接的興味への変容を促す遊戯性のある学習活動の検討がなされ，これを踏まえて，エドマンド・フェルドマンが提唱した批評鑑賞法の課題が指摘され，改善案が提案されている。改善案として示された「興味のフェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルは，記述，分析，解釈，判断の４段階からなるフェルドマンの批評鑑賞法に，デューイの理論による遊戯をベースにした興味の発展プロセスを組み入れて構造化したものであり，これによって一時的な直接的興味から意義や結果の考慮が伴う間接的興味への移行を効果的に促進することを特徴としている。

第３章では，「『興味のフェルドマン・メソッド』による鑑賞モデルを用いた構造化された鑑賞授業を通して，児童の美術鑑賞に対する興味の質的向上を図ることができる」という研究仮説の検証に向けて，中国人児童の実態を明らかにすることを目的として 2022 年に実施された中国の山西省と河北省の小学校４校の高学年児童 645 名を対象とした質問紙調査の報告がなされている。調査から，中国人児童は，中国の美術作品や一部の有名な芸術家の作品に興味が偏る傾向があること，小学校の鑑賞学習では知識伝授が中心的であること，学校と博物館や美術館との連携が乏しく，海外の美術作品と出合う機会が少ないことを明らかにしている。

別記様式第6

第４章では，研究仮説の検証を目的としたパイロット・スタディ，アクション・リサーチⅠ・Ⅱ・Ⅲが計画されている。ステファン・ケミス，ロビン・マクタガート，デイビッド・ニューナンによるアクション・リサーチの手法の検討を踏まえて独自の研究方法がデザインされている。

第５章では，2022 年から 2023 年にかけて実施された山西省の公立小学校３校の高学年児童を対象としたパイロット・スタディ並びにアクション・リサーチⅠ・Ⅱ・Ⅲの実施内容が報告されている。パイロット・スタディには公立Ａ小学校の児童 21 名，アクション・リサーチⅠには同小学校の児童 128 名，アクション・リサーチⅡには公立Ｂ小学校の児童 143 名，アクション・リサーチⅢには公立Ｃ小学校の児童 141 名が参加している。興味の質的変化を測ることを目的として作成された質問紙調査から得られた事前・事後の量的データの平均値比較，児童による自由記述から得られた質的データの KH Coder によるキーワードの共起ネットワーク分析，児童への半構造化インタビューを通じて，提案された鑑賞モデルの原理により開発された学習の有効性を実証している。

本論文は，以下の３点で高く評価できる。

１．2018 年以降，中国では滞っていた小学生の図画工作科や美術鑑賞に対する興味の実態を調査し，興味の傾向を具体的に示すとともに，興味の向上の妨げとなっている要因を明確化したことである。対象地域が限定されているものの，中国人児童の実情把握に有益な情報を得ている。

２．学校や美術館等で批評鑑賞の手法として国際的に普及しているフェルドマン・メソッドに関して，興味の質的発達の観点が看過されていることを指摘し，質的発達に着眼した独自の鑑賞モデルをデューイの興味論・遊戯論を基盤として新しく構築したことである。直接的興味から間接的興味への転換を促す鑑賞モデルは他に類を見ない。

３．提案した鑑賞モデルである「興味のフェルドマン・メソッド」の原理に基づく小学校高学年用の学習を開発し，中国人児童を対象とした実証的研究を通じて，鑑賞モデルの有効性を示すとともに，興味の質的向上の具体的様相を解明したことである。

以上，審査員全員で審議の結果，全員一致で，本論文の筆者・姜家晨氏は，博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと判定した。

令和　６年　４月　９日

備考　要旨は，A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size,2pages (about 500 words).)